

## 留学報告書 ～4か月間で学んだこと～

東義大学校  
国際文化学部生（中期）

私は韓国釜山にある東義大学に2019年8月28日～2019年12月30日の4か月間の中期留学に参加しました。

高校生の頃から、韓国の文化や言葉に興味を持っており、大学に入学したら韓国語を学びたいと考えていました。私は韓国語に興味を持ってはいましたが、学んだことはありませんでした。韓国語を学びたいと強く思っていたので、大学に入ってから「基礎韓国語1」を受講しハングルの読み方や書き方を1から学びました。他にもi-Loungeで行われている韓国語サロンなど様々なイベントに参加し韓国の留学生とコミュニケーションをとりながら韓国語を学びました。学んでいくうちに韓国についてもっと知りたいと思い1年の夏休みに2週間の短期留学に参加しました。短期留学で初めて韓国に行きました。海外の学校で語学を学んだり日本との文化の違いを目にしました。何もかもが初めての事だったので2週間あっという間に過ぎてしまいました。短期留学が終わってから将来韓国語を使った仕事に就きたいと考え始めました。仕事で韓国語を使うには流暢な語学力、韓国の文化を理解することが必要だと考え、韓国の中期留学に参加しました。留学が決まってからは韓国語の講義はもちろんTOPIKを受けたりし、留学に備えました。

東義大学では2019年9月2日～2019年12月20日の間韓国語を学びました。東義大学での時間割は、月曜から金曜日の平日に午前9時から午前12時50分まで語学堂で学び、週に一回のTOPIKⅡをとっていました。語学堂では初めにレベル分けテストを受け、その結果をもとにクラスが決められていました。私のクラスには日本人は2人の他、中国、台湾、ロシア、ドイツ、モンゴルの留学生がおり、多国籍なクラスでした。勉強面で苦労したことは韓国語の発音でした。韓国語には日本には無い音がいくつかあります。スピーキングの授業中に先生に当てられ発言すると、私たち日本人だけが上手くできずに悔しい思いもしました。ですが2人で寮に戻ってから練習したり、ボイスメッセージで先生に指導して頂き乗り越えることができました。初めの頃は身振り手振りでコミュニケーションをとっていました。ですが、時間が経つにつれて韓国語で意思疎通ができるようになり達成感を感じられました。今まで日本で日本人と日本語でしか会話をしたことがなかったのですが、外国語で違う言語を使っている人と話せているということにとっても嬉しさを感じました。語学堂の授業では、座学だけではなく韓国の伝統的なゲーム「ユンノリ」などをしながらクラスメイトとコミュニケーションをとる授業などもありました。クラスメイトとコミュニケーションをとる時間が多かったので韓国の文化だけではなく中国、モンゴルなど他の国の文化も学ぶことができました。休憩時間には各国の流行語を教えてもらったり逆に教えたりして過ごしていました。クラスメイトと話して日本のアニメや漫画は本当に人気だということがわかりました。日本にとっても興味を持っていてくれて質問されることがよくありました。ですが、答えられないこともいくつかあり自分の国についてもっと学ばなければならないと思いました。TOPIKⅡの授業は自分の語学力よりもレベルが高い授業でした。なので、ついていくのにとっても必死でした。授業についていくために授業で使う教材を見て分からないところは事前に予習をし、授業後は復習をしていました。それでも分からないところは先輩に教えてもらい必死に授業についていきました。授業中の説明ももちろん韓国語なのでとても大変でした。日本に戻りまだTOPIKⅡを受けられていませんが、結果が出せるように今後も学んだことを忘れないよう復習していきたいです。

日常生活は学校内にある寮で生活していました。1部屋を2人で使っていました。部屋の中にはベッド、勉強机、荷物をしまえる棚がありました。トイレやシャワールームは部屋の外にあり、同じ階で過ごしている留学生と共有していました。食事などは寮で済ますな

ど、学校の近くに繁華街があったので、その繁華街で食事を済ませていました。私たちが留学に行くとき、日韓関係が悪化しておりとても心配していました。メディアでは不買運動など反日デモが毎日のように放送されていて、留学に行くのがとても不安でした。ですが実際行ってみるとそのようなことはなく、私たちが日本人だと分かってもとても親切にしてくださり、留学期間中、嫌な思いをしたことは一度もありませんでした。中には差別する人もいるかもしれませんが、留学中に会った人達は、私を日本人として色眼鏡で見ずに一人の人間として接してくださりました。メディアで報道されていることがすべて正しいわけではないと気が付きました。実際に自分の目で見るのが大切だと気づかされました。留学に行く前と留学後で韓国に対するイメージが変わりました。まだ生活に慣れてなく、韓国語にも自信がないときに道に迷ってしまい困っていたら地元の人が声をかけて助けてくださいました。なれない場所でとても不安でしたが助けていただいてとても嬉しかったし安心しました。約4か月間滞在して何度かこのような体験をしました。日本で外国の人が困っている逆の状況を考えたとき同じように助けられる人はあまりいないのではないかと思いました。以前の私ならば、「○○人だし言葉話せないし…」と思っていたと思います。ですが自分が体験してみて声をかけて助けようとしてくれることがどれほど嬉しく、そして安心するかが分かったので外国人だからと色眼鏡で見ないように気を付けたいなと思いました。他にも、同じアジアでも少しずつ文化が違うことが改めて分かりました。韓国の食生活では、出された食べ物は食べきってはいけないと知り、いざ自分がやってみると罪悪感を抱きました。日本で当たり前のように残さず食べることを教わり生きてきました。ですが、隣の国韓国では私が当たり前だと思っていた常識が非常識に当たることに驚きました。このことから国によって自分の常識を変えなくてはいけないことがわかりました。しっかりと相手の国の文化を尊重できるよう今後も学んでいきたいと思いました。留学して様々なことを学びました。語学はもちろん外国の人との接し方を学ぶことができました。語学だけならば日本でも学ぶことができますが、同時に韓国の文化、礼儀なども実際に暮らし学ぶことができ、中期留学に参加してとてもよかったと感じています。